

2025年

2月3日(月)

13:30~18:00

北陸先端科学技術大学院大学・金沢大学
第4回共同シンポジウム

with

第16回ライフサイエンス研究交流セミナー

参加申込

事前登録必須

テーマ
健康長寿

プログラム

13:30~13:35
13:35~13:40

13:40~14:20

講演①

14:25~15:05

講演②

15:25~16:05

講演③

16:10~16:50

講演④

16:50~16:55

17:00~18:00

【対面限定】



ハイフレックス開催



(対面) JAIST・金沢大学ご所属の参加者限定
金沢大学自然科学系図書館棟
1階大会議室

(オンライン)

Webex ※第一部のみ配信

※所属ごとに登録フォームが異なりますので
ご注意ください

-----講演要旨は裏面へ!-----

趣旨説明、講演者及び講演内容の紹介
開会あいさつ 金沢大学 和田学長

北陸先端科学技術大学院大学
物質化学フロンティア研究領域、
超越バイオメディカルDX 研究拠点

栗澤 元一 教授

難治性疾患治療を変える
薬効増幅型緑茶カテキン・ナノ粒子の開発



金沢大学
がん進展制御研究所 所長

鈴木 健之 教授

がん悪性進展におけるエピゲノム・
エピトランスクリプトーム制御の解明に向けて



北陸先端科学技術大学院大学
物質化学フロンティア研究領域、
超越バイオメディカルDX 研究拠点

都 英次郎 教授

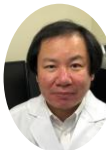
光細菌を利用したがん診断・治療技術



金沢大学
がん進展制御研究所

城村 由和 教授

革新的な健康寿命延伸法創出に向けた
老化細胞多様性の包括的解明



閉会あいさつ 北陸先端科学技術大学院大学 寺野学長

ポスターセッション・懇談会

※ポスターセッションの詳細は追ってお知らせします (1月以降公開)

主催：北陸先端科学技術大学院大学、金沢大学

問い合わせ：金沢大学研究推進部研究企画課 life-science@adm.kanazawa-u.ac.jp

第一部

第二部

2025年

2月3日(月)

13:30~18:00

北陸先端科学技術大学院大学・金沢大学

第4回共同シンポジウム

with

第16回ライフサイエンス研究交流セミナー

テーマ
健康長寿

参加申込は表面のQRコードから登録をお願いいたします
(事前登録必須)

第一部 講演要旨

13:40~14:20

講演①

北陸先端科学技術大学院大学
物質化学フロンティア研究領域、
超越バイオメディカルDX研究拠点

栗澤 元一 教授

難治性疾患治療を変える

薬効増幅型緑茶カテキン・ナノ粒子の開発

先端医療を支える生体材料に関する研究は、難治性疾患を将来的に治療可能とする医療技術開発において益々重要な役割を果たすものと期待されている。講演者らは、がん治療を目的とした緑茶カテキン誘導体を薬物キャリアとする自己会合ナノ粒子を設計し、ドラッグデリバリーシステム(DDS)に関する研究を推進してきた。この緑茶カテキン・ナノ粒子は、腫瘍への抗がん剤の送達のみならず、薬物キャリアの主成分である緑茶カテキンが抗がん活性を有することから、抗がん剤と薬物キャリアの抗がん活性に基づくシナジー効果によって、抗腫瘍効果を増幅する特長を有している。本技術は、がん以外の疾患の治療にも有用なプラットフォームテクノロジーとして国際的に高く評価され、世界中のニュース・メディアより、本技術による将来的な疾患治療の可能性について発信されている。緑茶カテキン・ナノ粒子を組み入れ、薬物単独では不可能とされてきた治療をはじめて可能にする材料設計の提案によって、産学官連携からの研究支援が期待され、医療での新事業創出を通じた社会貢献が可能になるものと期待される。

14:25~15:05

講演②

金沢大学
がん進展制御研究所 所長

鈴木 健之 教授

がん悪性進展におけるエピゲノム・

エピトランスクリプトーム制御の解明に向けて

がんの発症・悪性進展には、遺伝情報そのものの変化と、遺伝情報発現の変化が関わっています。後者は、可逆的性質を持っているので、元の状態に戻すという治療戦略が考えられます。私たちは、遺伝情報の発現様式を司るエピゲノム制御と転写されたmRNAの制御に注目して、悪性進展の分子メカニズムを理解するための基礎研究を進めています。転移や薬剤耐性など悪性進展を阻止するための新たな分子標的を同定するために、取り組んできた共同研究の成果をご紹介します。

15:25~16:05

講演③

北陸先端科学技術大学院大学
物質化学フロンティア研究領域、
超越バイオメディカルDX研究拠点

都 英次郎 教授

光細菌を利用したがん診断・治療技術

腫瘍組織から強力な抗腫瘍作用を持つ複数の細菌(A-gyo, UN-gyo)の単離に成功、これらの複合細菌(AUN)の光特性と組み合わせ、がんの診断と治療を同時に行える「がん光細菌治療」を開発、臨床治療の実現を目指しています。

16:10~16:50

講演④

金沢大学
がん進展制御研究所

城村 由和 教授

革新的な健康寿命延伸法創出に向けた

老化細胞多様性の包括的解明

20世紀後半から平均寿命が飛躍的に延びる一方、日本では平均寿命と健康寿命の差が約10年に及び、医療費の増大が深刻な課題となっています。近年の研究により、老化細胞が臓器の慢性炎症や機能不全を引き起こし、個体の老化や加齢性疾患の主因であることが明らかになりつつあります。これらの老化細胞を標的とすることで健康寿命の延伸が期待されますが、そのためには老化細胞の多様な特性を深く理解することが不可欠です。本発表では、我々が独自に開発してきたマウスモデルを用いた老化細胞の包括的な解析に関する最新の知見をご紹介します。

主催：北陸先端科学技術大学院大学、金沢大学

問い合わせ：金沢大学研究推進部研究企画課 life-science@adm.kanazawa-u.ac.jp